

『<sup>わ</sup>環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

		作成年月日	平成18年1月20日	
		作成部署	土木建築部港湾課	
事業名	地方港湾宮津港 港湾侵食対策事業		構想番号	
概算事業費	16.5億円		地区名	地方港湾宮津港(矢原地区)
事業概要	護岸工 1,120m 植樹帯工 1,120m 突堤工 4基		事業期間	平成8年度 ~ 平成30年度
関連する公共事業				
ガイドライン		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価
	主要な評価の視点 [ 地球温暖化 (CO <sub>2</sub> 排出量等) 地形・地質 物質循環(土砂移動) 野生生物 ・絶滅危惧種 生態系 など ]	・前面に魚類の産卵・生育場となっている藻場が存在する。また、アサリやトリガイが多く生息し、海苔養殖の漁業権が設定されていることから生態系に配慮した構造とする。	沖合への構造物の設置を抑え、護岸幅が極力短くなる構造とする。	
地球環境・自然環境				
	[ 水環境・水循環 大気環境 土壌・地盤環境 騒音・振動 廃棄物・リサイクル 化学物質 粉塵 電磁波・電波・日照 など ]	・海岸沿いに人家が連担し、生活空間が形成されており、飛沫による塩害被害が見受けられる。	護岸背後に植樹帯を設けることにより、飛沫を防止し、塩害等を防止する。	
生活環境				
	[ 景観 里山の保全 地域の文化資産 伝統的行祭事 地域住民との協働 など ]	・若狭湾国定公園に指定され、日本三景天橋立を一望できる位置にあるが現在、老朽護岸や消波ブロックにより、海辺とのふれあいや、眺望を阻害している。	・景観性及び海辺へのアクセスに配慮した緩傾斜式の護岸を採用し、また飛沫防止に植樹帯を設けることにより景観や親水性の向上を図る。	
地域個性・文化環境				
地域の環境像	当該箇所は、若狭湾国定公園に指定され、天橋立を一望できる位置にあるとともに、海岸沿いに人家が連担しており、生活空間が形成されていることから、海岸災害の防護を図りながら、景観や海辺利用に配慮を行う。			
特記事項	特記事項なし			

「環境評価」欄には、評価項目ごとの環境配慮の自己評価を記載する。(改善、中立、悪化×)